

陽ごこちの家

設計者／田村建築設計工房 施工者／分離発注



設計趣旨

CONCEPT

思い出を引き継ぐ家として

高崎市郊外にある敷地は国道17号の枝道の店舗や集合住宅、戸建て住宅の入り混じる地域に建つ住宅。開放的な生活とプライベートな生活の両方を満たすことのできる住まいを目指し、コミュニケーションをとるための開く場所と家族の生活の場所としての閉じた屋外空間を計画し、地域の方々とのつながりを持ちながら、家族の時間も大切にすることを考えた。

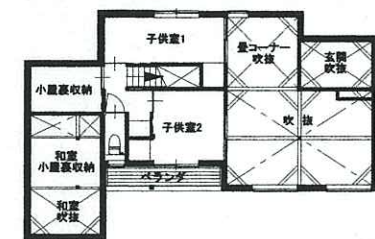
施主の子供時代の「風の通る北の縁側でスイカを食べた」思い出を子供たちにも体験させてあげたいと希望があった。子供の時の体験はいくつになっても原体験として心に残る。アウトドア好きな家族のために日々の生活の中でも思い出をたくさん作れるような場所や仕掛けを用意した。

板塀に囲われたデッキでは周囲を気にせず、さんまを焼いたりバーベキューをしたり、またターフやテントを張ってミニキャンプもできる。デッキは工作の場所となり一緒に工作をしながら父親が物を作る姿を見せることもある。

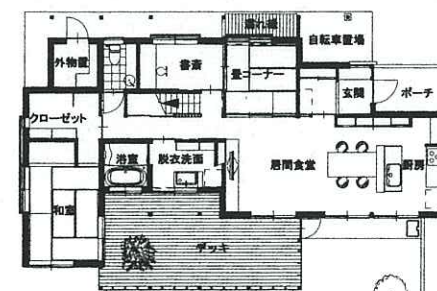
室内では子供部屋への秘密の通路や縄梯子、展望窓への貫梯子など仕掛けを作った。特に展望窓は、仕事で通る父親の運転するトラックを見送りたいとお子さんからの希望による。住まいの中で父親が活躍できる場所や仕事がたくさんあると、子供たちが巣立っていく時に力強い思い出として残っていく。



平面図



2F



1F

思い出を引き継ぐ家として



講評 REVIEW

高崎市郊外の住宅・店舗の混在した東と南の道路に面した角地で、周囲に開かれた敷地です。木板張りの塀と一体化した杉無垢材の外壁に沿って、ポーチから玄関に導かれます。居間に入ると、左に食堂・対面式のオープンな厨房から、南のオープンな近隣とのコミュニケーションを考慮した庭と、木塀に囲まれたプライベートなデッキ・アウトドアリビングに連続しています。右の北側には畳コーナーがあり、さらに北側に連続する濡れ縁には、車が横付けできます。風の通り道となっているこの濡れ縁での夏、スイカの種飛ばしは、家族や近隣との楽しいコミュニケーションの場になっているそうです。西側にプライベート空間を配してありますが、片流れ屋根によって作られる2階の子供室へ連続する吹き抜け空間の中に、楽しい豊富なアイデアを組み込んだ仕掛けがあり、子供たちの想像力を掻き立てる夢の世界が広がるようです。また在宅介護も視野に入れた住宅造りの大きさも考慮されているようです。

